

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 130号

2015/2/23 発行
株式会社 立花商店
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き

① 最高3月 LDN 市場£2,038 /3月 NY 市場\$3,027 (2/20) 先週比 LDN +20 / NY +58
② 最低：3月 LDN 市場£2,005 /3月 NY 市場\$2,969 (2/16) 先週比 LDN -3 / NY +106
週内価格差額 (①-②) : LDN 市場£33 (傾向↑) / NY 市場\$58 (傾向↑)
週内建玉推移 : LDN 市場 243,140 枚(2/13 終了時) ⇒ 250,684 枚 (2/19 時) **+7,544 枚**
NY 市場 185,651 枚(2/13 終了時) ⇒ 188,686 枚 (2/19 終了時) **+3,035 枚**

	2015/2/16(月)		2015/2/17(火)		2015/2/18(水)		2015/2/19(木)		2015/2/20(金)	
	LD	NY	LD	NY	LD	NY	LD	NY	LD	NY
4-Mar	2005	2969	2024	2990	2029	3027	2025	3025	2038	3027
5-May	1977	2931	1997	2942	2003	2973	1999	2975	2015	2979
5-Jul	1957	2915	1977	2925	1984	2953	1982	2956	1996	2962

2、カカオ豆価格高騰によりチョコレート需要が低迷(2/17)

* 欧州=景気停滞がカカオ需要の重しとなる

* 植物油が高価なココアバターの変性品になっている

カカオ豆価格の高騰により、カカオ豆摩砕業者は利益が薄くなり、チョコレートメーカーは製品のサイズを小さくしたり植物油などの安価な代替品を原料に使用したりと様々な影響が出ており、今年のチョコレート需要は依然停滞したままであるとみられている。

欧州、北米、アジアにおける第4四半期のカカオ需要のデータが予想を下回ったこともあり、見通しは依然良くないとされている。世界的なコモディティのブローカーである **Marex Spectron** の農業部門のトップは「第1四半期のカカオ豆の摩砕量は、世界的にみて、昨年第1四半期に比べ下落するだろう。もしもカカオ豆価格がこのまま上昇し続けたら、需要の回復はあまり期待できないだろう。」と述べている。

2014年には、世界トップ2の生産国であるコートジ、ガーナの生産量が落ちるとの懸念から、ロンドン先物価格は13%も上昇した。今こうしたカカオ豆の高騰によって、チョコレートメーカーは製品の原料の配合を見直しせざるを得ない状況になっている。

Milka や Cadbury Dairy Milk を生産するモンデリーズ社は、カカオ豆価格の高騰によってチョコレートのサイズを小さくする実質値上げを検討していると述べている。

ある関係者は「チョコレートの値上げには2つあり、1つは実際に製品の販売価格を上げることであり、もう1つは顧客が今の価格水準を希望している場合で、サイズを小さくする実質値下げである。」と述べている。

アビジャンを拠点にした Ecobank の Victoria Crandall 氏は「チョコレートメーカーは高価なココアバター代わりにパームカーネルなどの代用油脂に切り替えていこう。同時に北米や欧州のチョコレートメーカーは小売価格を上げたりサイズを小さくしたり、原料の値上げに対応している。規制が厳しく、また価格についてシビアな姿勢を示すアジアのような新興国では、安い原料への切り替えは妥当な選択肢として考えられている。」と述べている。

米国のハーシー社はここ数年サイズの縮小は行っておらず、その代わりに小売価格を値上げした。スポークスマンは「昨年の夏、我々はチョコレートに含まれる複数の原料が高騰していることを背景に製品価格の値上げを公表した。」と述べた。

チョコレート需要の低下の原因は、製品の値上げ以外にもある。その1つとして考えられているのが欧州の景気低迷である。なぜなら欧州は世界最大のチョコレート消費圏であるからだ。

東南アジアの摩砕業者は、景気が回復しない限りチョコレート需要の上昇は難しいと考えている。

北米最大の摩砕業者である Blommer は、2014/15 期もチョコレート市場は活気が戻らないとみている。そしてその原因はやはりカカオ豆価格の高騰と世界的な景気低迷にあるとされる。

ある関係者は「価格の値上げやサイズ縮小によって需要を回復させるなんて習った覚えがない。」と述べた。

3、サントメ・プリンシペ：カカオ豆で900万USドルを稼ぐ=2014年(2/17)

サントメ・プリンシペの国立統計機関によると、同国は2014年にカカオ豆の輸出で900万USドルを得ており、これは農産物の輸出全体の93.9%にあたる。

サントメ通貨で評価した場合、国際市場でのカカオ豆価格の上昇により、輸出価格ベースで58.9%も伸びている。また数量ベースでは2013年の2,617トンから22%上昇し2014年では3,193トンとなった。現状、同国の輸出産物の6.1%を占めているのはココナッツ、コーヒー、花、ペッパーである。

サントメの農産物の主な輸出先はポルトガル、オランダ、ベルギーとなっている。



4、アジア：バターレシオさらに低下、パウダー価格はわずかに上昇(2/18)

*ココアバターレシオ 1.88-2.0

*パウダー \$1,800~2,200

アジアのバターレシオは今週さらに下落し、依然として過去 21 ヶ月での最低水準を保っている。摩砕業者は第 1 四半期もバターやパウダーに対する需要が停滞するとみている。

カカオ豆価格が上昇したうえに、景気動向が変わり、世界最大のチョコレート消費圏である欧州や米国でのチョコレート需要に影響が出ている状況にある。

その結果、アジアの摩砕業者は大量のパウダーとバターの在庫を抱えることになり、在庫をはくために利益を削って価格を出している。

摩砕業者は第 1 四半期の摩砕量はあまり多くないと見込んでいる。過剰在庫を順番にはきながら、カカオ豆の調達を慎重に行っている。

東南アジアの摩砕業者はロイターに対して「アジア市場はまだまだ成長の余地がある。ただアジアでは欧州ほどたくさんのチョコレートを消費しない。」と述べた。

またインドネシア・カカオ協会(ASKINDO)のメンバーは「希望は米国でのチョコレート消費量である。他の国々に比べ景気が回復してきている。」と述べた。

5、景気低迷で欧州、アジアのチョコレート需要が低下(2/18)

世界的なチョコレートブームが落ち着きを見せている。

世界的な景気低迷により、消費者の財布の紐が堅く、2015 年のチョコレート需要は 6 年振りのスローペースとなりそうだ。

投機筋による買いにより、カカオ豆先物価格が上昇した後、チョコレート消費が落ち込んでいる。というのも、チョコレート原料の上昇でハーシー社やモンデリーズ社、オレオの製造メーカーは小売価格の値上げに踏み切ったからだ。

世界最大のカカオ豆産地であるコートジでは、記録的な収穫量となったが実際には需要が落ち込んでいる。このため、アジア、欧州、北米の第4四半期の摩砕量は低下した。

カカオ豆先物価格は2014年9月に3年ぶりの高値を付けたあと14%ほど下落した。その為、今年は需要と製品供給量がマッチするとの見方がある。ただ一方でカカオ豆がわずかに供給過剰となる懸念もある。

米国の活発なチョコレート需要が欧州やアジア圏での消費量低下を補うことも考えられる。シカゴマーケットリサーチャーによると2014年、米国のスーパーマーケット、ドラッグストアでのチョコレートの売り上げは2.4%上昇し38億8000万ドルとなった。

異常気象がカカオ豆産地を襲い、供給懸念をもたらし、2月だけでカカオ豆価格が約9%上昇した。乾燥気候、サハラ砂漠からの砂交じりの風が通年よりも2倍ほど長い期間続き、西アフリカのカカオにダメージを与えている。ガーナでは乾燥状態により、生産量が昨年よりも9%下落し82万トンとなる見込みである。

バリーカレポー社を顧客としてもつOakland社は「長い目で見ると、伸び行くチョコレート消費に対応するだけのカカオ豆を生産するために、カカオ産業に投資をする必要がある。もしカカオ豆価格が低いと、農家はカカオ農園に設備投資をしなくなり、カカオの生産量が低下し、世界のチョコレート需要をカバーしきれなくなるだろう。」と述べている。

コートジでは乾燥気候により、カカオの育成が阻害されたにも関わらず、収穫量が記録的な水準となり、農家による設備投資が進み、十分な供給量を確保することができた。

2月15日までに港に着荷したカカオ豆は118万4000トンとなり、昨年よりも3%上昇した。

カカオ豆価格が12か月で1%下落したものの、この10年でみると84%も上昇している。2014年、ハーシー社やマーズ社では原料高騰をカバーするために製品価格を値上げした。

価格上昇は消費者の購入意欲を抑え、需要の回復はなかなか難しいものとなっている。

ハーシー社の売り上げは、マクロ経済が向かい風となり、第4四半期は減少した。

商品市場のアナリストによると「我々はチョコレート需要が今年1年もあまり大きく伸びないだろうとみている。需要は近年と比較しても弱く、例えコートジのカカオ豆着荷量が増えてもあまり状況が改善しないだろう。」と述べた。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp